

Q まもなく東日本大震災の発生から15年を迎えます。これまでの成果と今後の取り組みについてお聞かせください。

A 宮城・東北を訪れる外国人観光客数は、さらに増加が見込めると思います。今後の取り組みを教えてください。

Q 海外との交流が徐々に動き始めた実感はありますか。

A はい。コロナ禍で落ち込んだ動きが、ようやく戻ってきたと感じます。仙台空港の国際線利用者数は過去最多となり、航空便数も増加していることから、今後も伸びる手応えがあります。



インタビューを終えて

今年の3月11日で東日本大震災の発生から15年です。私自身、被災直後の沿岸部の光景やそこで聞いた声は決して忘れられません。

この15年の間に、被災地で求められることは変わってきました。時が経つにつれ、ハード面の整備は進んできましたが、未だソフト面での対応を必要とされている方は多くいます。その分、より丁寧に寄り添うことが求められると思います。

6期目は「積極的に現場に足を運び、話を聞く」と力強く話されていた知事の言葉が印象的です。宮城県にとってより明るい未来が待っていることを願っています。



仙台放送アナウンサー 梅島三環子さん

に向けた施策として成果があったと思います。

Q 私の6期目の任期中に気仙沼地域の防潮堤が完成すると、道路や施設などのハード整備は完了します。今後は、災害公営住宅にお住まいの方々など、今も大変な思いをされている方へのケアを、市町村や関係団体と連携し、丁寧に対応していきます。また、放射性物質による汚染廃棄物などの処理についても県民の皆さん理解を得ながら進めてまいります。

Q 村井知事だからこそできる寄り添う姿勢についてどうお考えですか。

A 昨年9月まで全国知事会長を2年間務めておりましたし、コロナ禍で県民の皆さんと直接お会いする機会が非常に限られていました。これからは積極的に現場へ足を運び、直接お話を伺っていきたいと思っています。

Q 病院の再編問題については、一部でも着工できるよう進めていきたいです。世界的な半導体関連企業の誘致についても、ぜひ実現させたいです。また、県民の安心のため、クマによる被害への対策にも取り組みます。

Q 6期目で力を入れたい施策を教えてください。

A 人口減少問題にはどのように対応しますか。

A 5つの対応策があると考えています。「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「成長した人材の県内定着」、「県外からの呼び込み」、「海外からの呼び込み」、そして「デジタルやAIを活用した人手不足の補完」です。どれか一つで解決できる問題ではないため、組み合わせて総合的に取り組んでいきます。

Q 最後に、県民へのメッセージをお願いします。

A 本県は今後20年間で約30万人の人口減少が見込まれているため、それを見据えた施策が不可欠です。20年後に「宮城は先手を打った」と評価してもらえるように、今年も積極的に取り組んでまいります。



新春インタビュー

活力ある宮城の創造を目指して

インタビュー
梅島 三環子さん × 村井 嘉浩

仙台放送アナウンサー

宮城県知事

A 東日本大震災から14年が経ち、新型コロナウイルスの影響も落ち着いてきたことから、さまざまなイベントを開催することができます。1年を通じて宮城県が盛り上がった年だったと感じています。第48回全国育樹祭や第61回献血運動推進全日本大会では、高校生をはじめ若い世代の皆さんに、森づくりや献血の大切さを知ってもらう良い機会になりました。さらに、アジア・トレイルズ・カンファレンス2025 in 宮城は、国内外ではなく、海外との交流人口の拡大

1年でしたか。

Q 新年を迎える。2025年を振り返って、どのような

